

令和7年度事業報告および令和8年度事業計画

令和7年度事業報告

令和7年度は、米国および国内における政権の動きなどにより、内外情勢が大きく変化した一年となりました。ウクライナ情勢や中東地域における紛争をはじめとする国際的な不安定要因は引き続き残り、世界経済には先行き不透明感が見られる状況が続いています。

我が国の航空分野においては、訪日外国人需要の定着により人流・物流が活発化する一方、国内線の収益課題、円安によるコスト増、人材確保、さらには気候変動対策など、中長期的な課題への取り組みが一層重要性を増しています。

このような状況の中、当協会はガバナンスと社会的信頼の確保を基本に、関係機関と円滑に連携しつつ、文化事業、航空遺産の継承、航空スポーツの振興をはじめとする各種事業を着実に推進してまいりました。以下、令和7年度における各事業の実施状況について報告いたします。

文化事業では、「航空と宇宙」定例講演会を4回開催し、新たに「夏休み航空宇宙教室」を開講し、延べ1,700名の参加を得ることができました。航空遺産継承事業においては、新たに2件の重要航空遺産を認定し、選定および保全活動を一層推進することができました。毎年「空の日」に開催している日本航空協会表彰式では、日本航空協会賞及び国際航空連盟賞を計15名、2団体に授与しました。

航空スポーツ事業では、多くの競技会やイベントが開催され、10月にはフィンランドで開催された「国際航空連盟（FAI）総会」に日本代表として参加し、海外関係者との交流を深めました。また、次世代の航空宇宙人材育成を目的として、関係団体・企業と連携のもと、航空スポーツ教室やこども模型飛行機教室などを開

催しました。

国際線発着調整業務では、成田、関西、羽田、新千歳、福岡空港の5つの混雑空港に就航する国際・国内定期便の2025年冬ダイヤ及び2026年夏ダイヤのスケジュール調整を中立性・公平性・透明性に留意しつつ、適切に実施しました。

各事業の財政基盤でもある航空会館は、老朽化した外壁面等の大規模修繕や、館内の空調環境改善のための調査を行いつつ、航空会館からの収入増加、事業運営の効率化を図り、予算を上回る事業収入を確保することができました。

令和8年度事業計画

令和7年度においても、各事業における収入の確保や、協会への支援拡大と事業の効率化、組織の活性化をはかり、竣工から48年を迎えた航空会館の修繕を着実に実施しつつ、残存する借入金を返済し、財政健全化にも努めてまいります。航空の歴史を守り続けるとともに、関係団体との緊密な連携のもと、航空宇宙の進歩発展に一層寄与できますよう精進してまいります。また、将来の人材確保のため若年層に対して航空宇宙産業に興味を持ってもらえるよう、航空宇宙の魅力発信を積極的に行うなど、以下の4点を重点項目として事業を推進してまいります。

- DX化や効率化、ガバナンス向上に努めることで公益事業として安定した事業展開を行う。
- 関係先との連携を密に図り、事業の活性化を進めるとともに適宜情報発信を行うことで認知度を向上させる。
- 老朽化した施設の安全性、機能性を確保しつつ、収支を安定させる。
- 着実に業務を遂行するために働きやすい職場環境、健全な組織体制を構築する。